6　研究構想図

- 小学校学習指導要領等
- 都・区の教育目標

学校教育目標
○よく考える子ども
○なかのよい子ども
○健康な子ども

- 学校、児童の実態
- 学校、教師の願い
- 保護者、地域の願い

研究主題

学びを楽しみ、学びを深める児童の育成
～対話的活動の充実を通して～

目指す児童像

低学年分科会
自分の考えをもち、他者とのやり取りを楽しみ、友達の考えのよさに気付くことができる児童

中学年分科会
自分の考えをもち、対話的活動を通して互いに意見を認め合う楽しさを感じ、共通点や差違点に着目して自分の思いや考えをまとめられる児童

高学年分科会
根拠をもって自分の考えを明確にし、対話的活動を通して新たな考えに触れる楽しさに気付き、自分の思いや考えを広げられる児童

専科分科会
音楽のよさを感じ取り、自分の思いをもって表現する児童

＜研究の仮説＞
- 「問題解決的な学習を通して、児童が課題を追究しようとする意欲を高め、学習ができる・分かるという学びの過程を楽しむことができるのではないか。」
- 「既習の知識を活用・応用し、新たな創造をする場面を設定することで学びを深めることができるのではないか。」
- 「対話的活動を充実させることで、児童の興味・関心を引き出しながら主体的な姿勢を育成できるのではないか。」

手だて

A　学びを楽しむための手だて
- 問題解決の学習の中でも、児童の疑問や思い・願いを尊重した問題づくり（問い）を丁寧に行うことで、課題を解決したいという意欲を引き出し、主体的に学習に取り組めるようにする。
- 振り返りを通して、できるようになったことを実感できるようにすることで、成長の実感や楽しさを蓄積できるようにし、自己肯定感を高められるようにする。
- ねらいに即した対話的活動を設定することで、話し合うことの意義を実感し、積極的に話し合いに参加しようとする姿勢を育成できるようにする。

B　学びを深めるための手だて
- 児童が習得した知識・技能を応用しながら活用する場面を設定することで、しっかりと使えることができる「生きた知識・技能」となるようにする。
- 学習のねらいに即した対話的活動を様々な場面で適切に取り入れることで、自分一人では思いつかない考えを発想することができるようにする。